

第8章 家庭

1 小学校家庭科の内容のまとめ

小学校家庭科における内容のまとめは、以下のようになっている。

- 「A 家族・家庭生活」(1) 自分の成長と家族・家庭生活
- 「A 家族・家庭生活」(2) 家庭生活と仕事
- 「A 家族・家庭生活」(3) 家族や地域の人々との関わり
- 「A 家族・家庭生活」(4) 家族・家庭生活についての課題と実践
- 「B 衣食住の生活」(1) 食事の役割
- 「B 衣食住の生活」(2) 調理の基礎
- 「B 衣食住の生活」(3) 栄養を考えた食事
- 「B 衣食住の生活」(4) 衣服の着用と手入れ
- 「B 衣食住の生活」(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- 「B 衣食住の生活」(6) 快適な住まい方
- 「C 消費生活・環境」(1) 物や金銭の使い方と買物
- 「C 消費生活・環境」(2) 環境に配慮した生活

2 小学校家庭科における「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順

ここでは、第5学年又は第6学年の「B 衣食住の生活」（6）快適な住まい方 を取り上げて、「内容のまとまりごとの評価規準」作成の手順を説明する。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、①及び②の手順を踏む。

<例 第5学年又は第6学年の「B 衣食住の生活」（6）快適な住まい方>

【小学校学習指導要領 第2章 第8節 家庭「第1 目標」】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

(小学校学習指導要領 P.136)

【改善等通知 別紙4 家庭、技術・家庭（1）評価の観点及びその趣旨 <小学校 家庭>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

(改善等通知 別紙4 P.18)

※今回の改訂では、これまでの学年の目標を整理し、教科の目標としてまとめて示している。

① 各教科における「内容のまとめ」と「評価の観点」との関係を確認する。

B 衣食住の生活

（6）快適な住まい方

次の（１）から（６）までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。

（イ） 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。

（下線）…知識及び技能に関する内容

（波線）…思考力、判断力、表現力等に関する内容

※「A家族・家庭生活」の（１）「自分の成長と家族・家庭生活」及び（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」については、指導事項アのみで構成されている。（１）の評価の観点については、「知識・技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」、（４）の評価の観点については、家庭や地域などで実践を行い、課題を解決する力を養うことから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」であることに留意する。

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

（１）「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識・技能」については、基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～を（～について）理解している」、「～を（～について）理解しているとともに、適切にできる」として、評価規準を作成する。
- ※「A家族・家庭生活」の（１）については、その文末を「～に気付いている」として、評価規準を作成する。

○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」については、教科の目標の（２）に示されている学習過程に沿って、「課題を解決する力」が身に付いているのかを評価することになる。基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を教科の評価の観点及びその趣旨に基づき、「～について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として、評価規準を作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと教科の目標、評価の観点及びその趣旨を踏まえて作成する。その際、対象とする指導内容は指導項目の名称を用いて示すこととする。具体的には、①粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）、②自らの学習の調整（その中で自らの学習を調整しようとする側面）に加え、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（①）、振り返って改善したり（②）して、生活を工夫し、実践しようとしている（③）」として、評価規準を作成する。

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習指導要領 2 内容	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。 (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。	イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。	※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、教科の目標(3)を参考にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準 例	・住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。 ・住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解していると、適切にできる。	季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方について問題を見いだし、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。 ※必要に応じて教科の評価の観点及びその趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。